

一般入試後期D日程

国 語

I

出典 安藤 宏『『私』をつくる 近代小説の試み』(岩波書店 2015年)

日本近代文学において「私」がどのような意図や技巧によって描かれているのかについて論じており、夏目漱石を取り上げた箇所から出題しました。文末表現に着目し、「一人称的視点」と「三人称的視点」の関係を正確に読解できるか否かが鍵になります。

問1【漢字の読み問題と書き取り問題】(解答番号は 1 ~ 6)

a さ、b 露骨、c 試行錯誤、d 拾、e 創意、f 模型が正答です。cについては思考錯誤、fについては模形などの誤答が目立ちました。全問正答者は全体の17%でした。

問2【空欄補充】(解答番号は 7)

正答は③です。空欄 I の直後の「いたたまれない」に通じる言葉を選べるか否かが鍵となります。第3段落の「“気恥ずかしさ”」もヒントになるでしょう。正答率は87%でした。

問3【空欄補充】(解答番号は 8)

正答は②です。空欄 II の前の「大方の合意があるわけではなく」、「まだ形成過程にある」が最大のヒントです。正答率は87%でした。

問4【空欄補充】(解答番号は 9)

正答は①です。空欄 III が本文3段落目の「『私』の判断を、あたかもない“かのように”よそおってみせる」の言い換えとなっています。それゆえ③の「客観的」は誤答です。空欄 III 直後の「演出」や「操作」さらには「巧妙」などの言葉に着目すれば、正答は導けるでしょう。正答率は13%でした。

問5【空欄補充】(解答番号は 10)

正答は⑦です。空欄 IV は引用文で頻出する主人公三四郎が「驚ろいた」ことを列挙し、まとめているので「要するに」という言葉が入ります。正答率は49%でした。

問6【空欄補充】(解答番号は 11)

正答は③です。空欄 V の直前の「二つの視点を交互的に織り交ぜ」が最大のヒントです。正答率は64%でした。

問7【空欄補充】(解答番号は 12)

正答は⑧です。「一人称的視点」と「三人称的視点」がそれぞれ「判断」と「事実」を表現するための技法であることを押さえることにより正答を導けます。正答率は68%でした。

問8【文脈把握による内容理解】(解答番号は 13)

正答は②です。「日本人の宿命的な困難」をいかに読み解くかが重要です。⑤が誤答であるのは「私を隠す必然性」という箇所です。正答率は11%でした。

問9【文章表現の理解】(解答番号は 14)

正答は③です。「直喩(明喩)」とは「(まるで・あたかも) ~のようだ(ごとし、みたいだ)」などの表現を用いつつ、たとえであることを示す表現です。正答率は76%でした。

問10【文脈把握による内容理解】（解答番号は15）

⑤が正答です。誤答として最も多かった⑥は、特に「無意識」という部分が間違いです。正答率は66%でした。

問11【小見出し選択】（解答番号は16）

それまでの「文末表現」についての内容を受けて、『三四郎』の文末表現を例に書かれているわけですから、⑤が正答になります。正答率は59%でした。

問12【小見出し選択】（解答番号は17）

「一人称的視点」と「三人称的視点」をいかに書き分けるのか、そのバランスの取り方の難しさが、まさに「危険な関係」と表現されていますので、②が正答です。正答率は74%でした。

問13【内容合致】（解答番号は18）

正答は⑨です。誤答の多かった②と⑦については、それぞれ「絶大な影響を与えている」、「『言文一致』体を有効に用いるためであった」とまでは本文では書かれていませんので、正答にはなりません。正答率は53%でした。

II

出典 小長谷 正明「医学探偵の歴史事件簿」（岩波書店 2014年）

1979年に旧ソビエト連邦の工場で起きた漏出事故について、医師の立場から分析した文章です。医学が軍事技術に使われたことによる悲劇と医学や科学技術のもつ二面性について触れています。

問1【漢字の読みと書き取り問題】（解答番号は19～25）

a かいよう、b 抗生、c 凶器、d 検疫、e 殺到、f 豪腕（剛腕）、g 埋葬が正答です。全問正答者はいませんでした。「潰瘍」を読めていない答案、「狂器」、「殺倒」などの誤答が散見されました。

問2【空欄補充 文脈把握に関する問題】（解答番号は26～28）

空欄Ⅰは「世界中が…おびえた」が、空欄Ⅱは「つまり、知事であり」がヒントです。空欄Ⅲは「痘瘡や麻疹患者の毛布や衣服など」を渡すことがどのような意味を持つのかに気づけば正答は導けます。空欄Ⅰの正答は⑥で、正答率は72%、空欄Ⅱの正答は⑧で、正答率は72%、空欄Ⅲの正答は⑧で、正答率は79%でした。

問3【空欄補充 文脈把握に関する問題】（解答番号は29）

空欄Xは「食肉」が、空欄Yは「生物兵器」がキーワードであり、空欄Zは「シベリア潰瘍」が皮膚炭疽症に関するものであることを踏まえれば正答は④と導けます。正答率は77%でした。

問4【空欄補充 文脈把握に関する問題】（解答番号は30）

タス通信の説明と西側社会の捉え方との違いに注目すれば解答は容易でしょう。正答は⑥で、正答率は60%でした。

問5【空欄補充 文脈把握に関する問題】（解答番号は **31**）

文脈把握に加え、慣用的表現を知っているか否かを問いました。正答は②で、正答率は6%でした。

問6【傍線部の説明 文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は **32**）

「もとより」「何かと」を正確に捉えていることが鍵です。正答は⑤で、正答率は85%でした。

問7【傍線部の説明 文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は **33**）

傍線部は「抹殺」されるべきものであったことから、知事のしたことの意味を正確に読み取る必要があります。正答は⑤で、正答率は32%でした。

問8【傍線部の理由 文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は **34**）

傍線部に「自ずと」とあることから、前後の合理的な判断が求められます。正答は②で、正答率は91%でした。

問9【傍線部の説明 文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は **35**）

傍線部の主語は「施設自体」であることに注意する必要があります。正答は⑦で、正答率は62%でした。

問10【傍線部の説明 文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は **36**・**37**）

炭疽菌事件の犯人が勤めていた研究所が、緑豊かでのどかな田園地帯にあることとの対照性を的確に説明する文章を選択することになります。正答は⑥と⑦で、正答率は36%でした。

問11【内容理解による小見出しの選択問題】（解答番号は **38**）

CIAが把握した情報や科学雑誌『サイエンス』の論文などから、生物兵器の事故があったことに西側世論も気づき始めたとの内容を読み取る必要があります。正答は⑥で、正答率は43%でした。

問12【内容合致問題】（解答番号は **39**）

正答は⑦です。①については周辺の野生動物や感染が疑われる家畜や何万匹もの野犬が処分されたことをアメリカが非難しているのではありません。②は区域外でほとんど異変に気づかなかったのは情報統制が徹底されたからです。③に関しては交代勤務者はメモを無視したのではなく気づかなかったのです。④については診療録ではなく剖検所見の検討による判断です。⑤についてはざっくりばらんかどうか実際は知らないと筆者は述べています。⑥のメッカは軍需産業都市ではありません。⑧は講師のロシア人が誰であったか本文には記載されていません。正答率は13%でした。

問13【内容理解による表題の選択問題】（解答番号は **40**）

ソビエト連邦ロシア共和国の炭疽菌事件を国家による情報統制の観点から論じています。正答は③で、正答率は4%でした。